

2020年5月24日  
宮崎中部教会主日礼拝  
牧師 乾元美

イザヤ書 40 章 10～11 節

マルコによる福音書 16 章 19～20 節

「主イエスは天に」

<昇天日>

先週 5 月 21 日（木）は、イエスさまが天に上げられた日、昇天日でした。

イエスさまは、私たちの罪の贖いのために十字架に架かって死に、三日目に復活させられました。それが、イースターです。そしてイエスさまは、復活の後、弟子たちと 40 日間共に過ごされ、天に上げられたのです。

そのイエスさまの昇天から 10 日後、弟子たちに聖霊が降りました。それが、来週の日曜日に記念するペンテコステ（聖霊降臨日）の出来事になります。

ですから今日は、来週のペンテコステに備えて、イエスさまが天に上げられたことについて、御言葉に聞きたいと思います。

<天に？>

ところで、私たちは教会で、あるいはお祈りなどでも、「イエスさまが共におられる」ということをよく聞くとお思います。2020 年、この日本の宮崎の地で生活している、この「私」と共に、イエスさまがおられます。そしてイエスさまは、みなさん一人一人とも、いつも共におられます。それに、日本各地の、私の信仰の友とも一緒におられますし、中国やアメリカにいるクリスチャンの友人とも、イエスさまは共におられます。

「イエスさまが共におられる。」これって、どういうことなんでしょうか。

しかも、今私たちは聖書で「イエスさまは天に上げられた」。「天に上げられ、神の右の座に着いておられる」という御言葉を読んだところでした。イエスさまが天におられるのなら、今、この地上にはおられないのでしょうか。じゃあ、「共におられる」というのは、例えば遠い場所にいる仲の良い友達に、「私たちは離れていても、いつも心は一緒だよ」というような精神的なことなんでしょうか。

よく考えると、私たちはいくつも疑問を持ってしまいかも知れません。

でも、イエスさまの十字架の死、復活、そして昇天は、教会の信仰の要であり、とても大切なことです。

そして、イエスさまが天におられ、神の右の座に着いていて下さるからこそ、イエスさまを信じる者は誰でも、どの時代に生きていても、どこにいたとしても、「イエスさまが私と共にいる」と言うことが出来るのです。

<復活のからだ>

イエスさまが天におられる、というのは、復活されたイエスさまが「からだ」を持って復活された、ということと深い関係があります。

「からだ」があるなら、私たちはどこか一か所にしか、存在することが出来ません。私は宮崎にいるなら、大阪にいることは出来ませんし、二つの会議が同時にあったら、どちらか一方にしか出席することが出来ません。時間と空間の中に、私たちは存在しているからです。

十字架で死なれたイエスさまは、「からだ」を持って復活なさいました。葬られたお墓は空っぽでした。復活というのは、死者の中から甦ったということです。幽霊や、誰かの幻覚だったわけではありません。だから、地上におられる間、復活されたイエスさまの復活の「からだ」は、この世の時間と場所の中に存在しておられたということです。

そして、イエスさまは天に上げられました。「天」というのは、私たちが日本昔話で知っているような「極楽」や、「天国」ではありません。聖書の「天」というのは、神さまが主権をもって支配されていることであり、神さまの存在の超越性などを現わしています。つまり、時間も、空間も超えておられる、ということです。イエスさまは復活のからだで、私たちの地上の時間や空間を超えた、神さまのご支配の満ちているところにおられる、ということです。

ですから、地上にいる私たちは、天におられる復活のイエスさまの具体的なお姿を、この目で直接見ることは出来ません。でも、復活し、生きておられるイエスさまは、天におられて、すべてを超越しておられるからこそ、この地上を生きている、どんな時代の、どんな場所の、どんな小さい一人とも、共にいて下さることがお出来になるのです。

そしてそれは、聖霊なる神さまが遣わされ、私たちに働いて下さることで実現します。

### <聖霊>

天に上げられる前に、イエスさまは弟子たちに、父なる神さまが聖霊を遣わして下さることを約束しておられました。それが、来週のペンテコステ、聖霊が降ったという出来事です。その出来事は、使徒言行録に詳しく記されています。

復活のイエスさまが天に上げられた 10 日後、五旬節という祭りの日に、弟子たちに聖霊が降りました。聖霊を受けた弟子たちは、復活なされたイエスさまの罪の赦し、救いの知らせを、世界中に宣べ伝えました。

聖霊が降ったことによって、イエスさまの救いが告げ知らされ、イエスさまの救いを信じる人々が興されたのです。生きておられるイエスさまは、聖霊を受けた弟子たちを用いて働かれ、救いの御業をなされます。そして、聖霊は人々をイエスさまの救いへと招きます。

聖霊なる神さまは、父なる神さまやイエスさまへと私たちを導き、交わりを与えて下さるお方です。そして聖霊は今、私たちにも与えられています。聖霊なる神さまが働いて下さる

からこそ、私たちは地上でイエスさまをこの目で見る事が出来なくても、イエスさまの救いを信じる事が出来るのです。

聖霊なる神さまが、私たちを教会へ招いて下さいます。聖霊なる神さまが、礼拝の聖書と説教を通して、天におられるイエスさまの御言葉を語りかけて下さり、生きておられるイエスさまとの出会いを与えて下さいます。

そして、聖霊なる神さまが、信仰を与えて下さり、洗礼によって、私たちと天におられるイエスさまとを結び合わせて下さいます。そうして私たちは、罪の赦しと、永遠の命に与ります。そして、聖霊なる神さまが、聖餐によって、天におられるイエスさまの体と、私たちが一つに結ばれていることを、何度も味わい知るようにさせて下さり、信仰を励まし、成長させて下さるのです。

このようにして私たちは、聖霊によって、十字架で死に、復活させられ、天に上げられたイエスさまと出会い、結ばれ、その救いの恵みに与るのです。私たちは、罪人であるのに、罪を赦され、神の子とされます。死んで朽ちる者であるのに、新しく生き、復活させられる者とされます。

そして私たちは、地上の歩みの中で、どの時代を生きていても、どの場所にいても、どんな人生であっても、「生きておられる復活のイエスさまが、私と共にいて下さる。天におられるイエスさまは、今ここに、確かに、私と共におられる。」そのように言う事が出来るのです。

### <主イエス>

さらに、今日の聖書には、天に上げられたイエスさまは、父なる神さまの右の座に着いておられる、とありました。

右の座、というのは、権威や権能のことを意味します。ですから、これは父なる神さまが、すべてを支配する力を、イエスさまに渡された、ということです。イエスさまが、神の力によって、今、天も地も治めておられ、私たちをいつも支配し、導き、助けて下さるのです。

私たちは、「支配される」というと、何だか抵抗感を持つかも知れません。私たちは「支配」ということを、束縛されることとか、力によって圧迫されることとか、抑圧され自由を失うことのように思っているのではないのでしょうか。それは、地上において人間が人間を支配する場合には、そのようになるからです。

しかし、神さまが人を支配なさる時には、そのような仕方ではなさいません。神さまは私たちが創造し、命を与え、養い、生かして下さる方です。愛をもって、恵みをもって、私たちが治めて下さるのです。

しかも、今、私たちを支配して下さるイエスさまは、この罪深い、弱い、どうしようもない私を救うために、ご自分の命を捨てて下さるようなお方です。罪人の私を生かすために、

私の代わりに罪の裁きを受け、死んで下さるようなお方です。私たちよりも低くなり、貧しくなり、ご自分を小さくされて、私たちの苦しみを知り、悲しみを知り、恐れを知り、絶望を知り、それらすべてを担って、共に歩んで下さる支配者なのです。

この方が、私たちの支配者、私たちの主人となって下さる。負債ばかりの私たちを、喜んでご自分のものとし、その負債を代わりに支払って下さる。イエスさまは、そんな支配者、そんな主人なのです。

今日の聖書の19節には「主イエス」と書かれていました。イエスさまが主である。イエスさまが私の主人である。この憐れみ深い神の御子を、「私の主よ、私の主イエスよ」と、呼ぶことが出来る人は、何と幸いでしょうか。この主イエスと、私たちは結ばれ、一つにされ、恵みを注がれているのです。

<天におられる主イエスと共に>

また、この天の主イエスと一つに結ばれているということは、私たちは、自分のからだの一部を、天に持っている、と言うことでもあります。とても大それた言い方ですが、これは改革派教会の伝統的な信仰の教えです。

私が、主イエスのからだの一部であるならば、天におられる主イエスも私のからだの一部と言えるのです。私の体は、すでに一部、イエスさまにあって、天にあるのです。神さまのご支配の内に、神さまの御許に、すでに置かれているのです。それほどまでに、私たちは主イエスと深く結ばれているのです。

そんな私たちは、地上において、結ばれているこの方にふさわしく歩みたい。この恵みを与えて下さった神さまに喜ばれる歩みをしたい、と願います。しかし現実、私たちは繰り返し罪を犯し、恵みを忘れ、神さまを悲しませること、怒らせることばかりです。

そのような時にも、イエスさまが、天の父なる神さまの右の座におられるということは、私たちにとって大きな慰めとなります。

イエスさまは、罪人の私たちのために、父なる神さまの許で、「この者の罪は、すでに私が償いました。私の血で、この者の罪の代価を支払いました。この者はもう、罪の奴隷ではありません。私のものなのです。お赦し下さい。」そう言って、私たちのために執り成し続けて下さっているのです。

そして、主イエスの赦しと恵みによって、地上の歩みを終え、終わりの日が来たなら。救いの完成の日が来たなら。私たちは、体の一部である主イエスの御許に引き上げられ、天に迎え入れられます。そして、一つに結ばれているイエスさまの永遠の命と、復活の恵みに与り、主イエスと共に、永遠に共にいます。

ですから、私たちは地上の歩みに困難を覚えても、苦しみにあっても、悲しみにあっても、天の主イエスを見上げて歩みます。天にある希望をもって、共にいて下さり、一つとなって

歩んで下さる主イエスを見つめて、頼って、委ねて、生きることが出来るのです。

この天の希望は、私たちが努力して近づくようなものではありませんし、しっかり握っていなければ、消えてしまうようなものでもありません。これは、イエスさまが恵みによって与えて下さる希望であり、聖霊なる神さまが保証して下さる確かな約束なのです。

この世で何があろうとも、イエスさまだけが、私たちの主人です。天におられ、神の右の座に着いておられるこのお方が、今この時も、これからも、いつまでも、私たちと共にいて下さいます。

### 【お祈り】

天の父なる神さま

十字架と復活の救いの御業を成し遂げ、天に上げられた、今も生きておられるイエスさまが、いつも、今も、これからも、私たちと共にいて下さることを、感謝いたします。

私たちは、聖霊によってこの方の御許に招かれ、御言葉を聞き、この方を知り、この方と一つに結ばれました。信仰を与えて下さったこと、神の子として下さったことを、心から感謝いたします。

世の苦しみ、悲しみ、困難が、私たちの目を奪いますけれども、どんな時も共にいて下さる、天におられる主イエスを仰ぎ見、救いの恵みを信じて歩む者として下さい。

そして、あなたが望んでおられるように、すべての者がイエスさまの救いを知り、イエスさまと結ばれて恵みに与り、あなたの御許に立ち帰って、神さまと共に歩む者となる事が出来ますように。そして、私たちもまた、イエスさまの救いの御業に用いて下さい。

このお祈りを、主イエス・キリストの御名によって祈ります。アーメン